

# 「CPT-11 療法」について

この治療法は、小細胞肺癌の治療法です。CPT-11 とはイリノテカン(Irinotecan)の略称です。

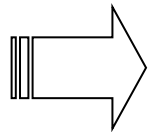
## 1. 投与方法

薬剤	効能または使用目的	投与時間
ソルデム3A	輸液(血管確保・ライン洗浄)	—
パロノセトロン(アロキシ)+ デキサメタゾン(デカドロン)	吐き気止め	15分
イリノテカン(トポテシン)	抗がん剤	90分

## 2. スケジュール

CPT-11 療法は28日サイクルで抗がん剤を投与していきます。初日、8日目、15日目に抗がん剤を投与すると残りの13日間は「休薬期間」といい、体調の回復を待ちます。その後同様にして治療が進んでいきます。

	1サイクル目					
	1日目	2日目~7日目	8日目	9日目~14日目	15日目	16日目~28日目
投与日	○		○		○	
休薬日		○		○		○



## 3. 特徴

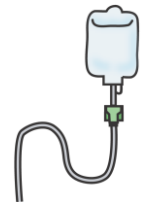
### ●トポテシン

作用: がん細胞が分裂する過程で作用し、抗がん作用を示します。

注意事項: 点滴中に痛みや違和感を感じたらお知らせください。

併用する薬剤や食品(グレープフルーツなど)によってはトポテシンの作用に影響を及ぼすものがあります。

現在服用している薬剤や健康食品などがありましたらお知らせください。



## 4. 副作用

抗がん剤治療によって起こりうる主な副作用の種類、予防法、そしてそれが出現したときのひとまずの対応方法を知ることが副作用対策の第一歩です。ここでは比較的高頻度に出現する副作用と頻度は少なくとも注意が必要な副作用(有害作用)について掲載しました。

(ただし、頻度や強さには個人差があることをご理解の上で、参考にさせていただきたいと思います。)

## 白血球減少

白血球は体の外から侵入してきた細菌等に対して体を守ってくれる(免疫反応)役割があります。白血球が少なくなると細菌等による感染が起こりやすくなり、感染すると発熱や倦怠感などの自覚症状が現れてきます。場合によって

は入院治療が必要な場合もあります。

**好発時期:** 抗がん剤を投与後7～14日目くらいに減少のピークを迎え、21～28日目くらいには回復します。

**対策:** 細菌は手を介して口から入ってくるケースも少なくありません。手洗い、うがいを心がけましょう。

外出時はマスクを着用してください。

虫歯が原因になることもあります。虫歯のある方は抗がん剤治療を行う前に治療しておくことをお勧めします。

**好発時期に38℃以上の発熱があった場合はご連絡ください。**



## 下痢

**好発時期:** 【早期型の下痢】 投与中あるいは直後から翌日にかけておこる下痢で一過性であることが多い。

【遅発型の下痢】 投与後24時間以上たってからおこり数日間続く下痢。

投与を開始してから1週間以内に起こることが多く、1～2週間頃に症状のピークを迎えます。

ただし、初回投与から3週間は下痢の発現に注意してください。

まれに重症な下痢になった場合、腸管粘膜の防御機構が障害されて感染の危険性が出てきます。

症状が長く続く場合は脱水の原因にもなるため水分を多めに取るよう心がけてください。

**対策:** 水分を多めに取って脱水が起きないように心がけてください。

予防的に漢方薬が処方になることがあります。

水分を取る場合、腸管内がアルカリになると粘膜の障害が減弱すると考えられるため、アルカリイオン水(1.5L～2L/日)を飲むのも有効であるとの報告もあります。

牛乳などの乳製品、コーヒー、アルコールは避けた方がよいでしょう。

下剤や腸管の運動を促進する薬(メクロプラミドなど)はご相談ください。

頻回の水様便や発熱を伴う場合はご相談ください。



## 吐き気・嘔吐

**好発時期:** 治療当日から数日間

症状の出方は個人差があり、数日後から出てくる方や、

症状が7日間程度続く方もいらっしゃいます。

**対策:** 抗がん剤による吐き気の強さに応じて事前に吐き気止めの点滴を行います。

症状にあわせて吐き気止めを処方させていただきます。上手くコントロールできない場合はお伝えください。

考えすぎるとそれだけで症状が出てくることがあります。リラックスしてあまり考えすぎないようにしてください。

多くの場合、予防目的で抗がん剤治療前に吐き気止めの点滴を行います。

食事は無理せず、食べられるものを少量取っていただいても結構です。

水分(水、スポーツドリンク、など)はなるべく取っていただいた方がよいでしょう。便秘の予防にもなります。

便秘は吐き気の原因にもなります。必要に応じて下剤を服用することをお勧めします。

部屋の空気を入れ替えたり、趣味を楽しんだりすることで吐き気が楽になることもあります。



## 食欲不振・味覚障害

**好発時期**: 点滴終了後から数日間で起きてることがあります。

治療が終了すれば回復してきます。

嗜好の変化や味を感じなくなる(甘味、塩味、苦味など)ことがあります。

**対策**: 食欲がない時には無理をせず、食べられるものを可能な範囲でバランスよく食べましょう。

口腔ケアによって味覚障害が予防できることがあります。清潔に保つよう心がけてください。

洗浄液をお使いの時は低刺激性のものをお使いください(水だけでも効果はあります)。

舌ブラシなどを使用するのも良いでしょう。

## 脱毛

**好発時期**: 2～3週間過ぎ頃から起こりやすくなりますが、治療終了後2～3ヶ月で回復し始めます。

**対策**: 症状が現れたら、回復まではスカーフ、かつらなどを着用していただくとよいでしょう。

外出時は直射日光を避けていただくため帽子をかぶるとよいでしょう。

頭皮を清潔に保っていただくことをお勧めします。ただし、刺激の強いシャンプー等は避けてください。



## 間質性肺炎

間質性肺炎は、肺が炎症を起こし機能が低下する病気です。確率は低い(1%程度)ですが、放置すると重篤化する危険性があります。症状としては**息切れ・呼吸困難、空咳、発熱**などが起こります。また、この症状は肺に病気を持っている患者さんほど起きやすいことが分かっています。上記の症状が出た場合は自己判断せずに早めにご相談ください。

**対策**: 初期症状は風邪によく似ているため自己判断せずに早めにご相談ください。



## アレルギー

**好発時期**: 点滴中または点滴後の比較的早い時点で現れることがあります。

自覚症状は、息苦しい、顔がほてる、胸が痛い、発疹がでる、汗がでる、などです。

**対策**: 異常を感じたらすぐにスタッフにお知らせください。

## 血管外漏出

抗がん剤を点滴しているときに血管の外に薬が漏れてしまう(漏出)ことがまれにあります。症状としては点滴部位の違和感、痛み、腫れ、などがあり、場合によっては血管に沿って症状が出てくるときもあります。もし、症状にお気づきになった場合は早めにスタッフにお声掛けください。

**好発時期**: 点滴している間が最も多く、まれに帰宅数日後に症状が出てくることがあります。

**対策**: 抗がん剤の種類によって対策が異なります。基本的には患部を温めたり、軟膏や注射による治療を行います。

※この他にも日常と違った症状がでた場合は病院までご連絡ください。

済生会宇都宮病院

代表:TEL 028-626-5500